



公益社団法人 日本パブリックゴルフ協会
平成24年度 調査・研究事業報告書

PGSゴルフ需要調査 集計分析報告書

委託者：公益社団法人 日本パブリックゴルフ協会
受託者：株式会社 WAY企画事務所 代表 山岸勝信

目 次

・ 目的、調査方法、集計処理	1 p
・ アンケート用紙（調査票）	2 p
・ 回収状況	3 p

<PGS入場者全体特性>

・ 性・年齢別特性	4 p
・ ゴルファーの移動状況	4 p
	5 p
・ 交通手段	5 p
・ 入場者の年齢 × ゴルフ歴分布	6 p
・ 新生ゴルファー	6 p
・ 年間プレー回数	7 p
・ 平均スコア	8 p
・ 希望料金 性・年齢別 ゴルフ歴別	9 p
・ 年間プレー回数別 平均スコア別 職業別	10 p
・ 居住地別	11 p
・ プレー地（コース所在地）別	12 p
・ 分散（ヒストグラム） 地域差	13 p
・ 入場者の過去利用回数	14 p
・ 会員権所有状況	15 p

<アマチュアゴルフ競技に対するニーズ>

・ 競技出場経験 今後の出場希望	16 p
・ 出場経験率のコース所在地別差異	16 p
・ 出場経験者の特性 性・年齢別	17 p
・ ゴルフ歴別、平均スコア別	18 p
・ 年間プレー回数別、HDCP 所有状況別	19 p
・ 競技出場希望率 コース所在地別、居住地域別	
HDCP 所有状況別	20 p
・ 出場希望者の特性 性・年齢別	21 p
・ ゴルフ歴別、平均スコア別	22 p
・ 所有HDCP別、過去の出場競技経験別	22 p

<別添資料>

- (1) PGS入場者特性 及び アマチュアゴルフ競技に対するニーズ 詳細資料
 (2) コース別対比

<目的>

本調査は

- (1) P G S加盟コース入場者（集客構造）の特性把握によるゴルフ振興基礎データの収集
- (2) 個別コース集客状況比較による経営基礎データの収集
- (3) アマチュアゴルフ競技潜在ニーズの把握

が目的である。そのために下記4点に重点をおく。

- 1. ゴルフ需要（全ゴルファー）とP G S加盟コース入場者との差異
- 2. 集客内容に差が大きくなってきた土日祝祭日と平日の差異
- 3. 都会地と地方の地域間差異
- 4. 個別コース間差異

<調査方法>

P G S加盟コースへ下記の要項で調査参加・協力を依頼した。

- 1. 調査日を平成24年10月25日（木曜日）、10月27日（土曜日）に指定する。
- 2. 当日入場者全員に「ゴルフ需要調査アンケート」（2 p参照）を配布し、記入依頼する。
- 3. 当日プレー後精算時までに入場者の70%以上を目標に記入済みアンケートを回収する。
- 4. 集計処理

回収アンケート票をP C入力し

- a. 各設問の集計
- b. 各設問間のクロス集計
- c. 入場者居住地別集計
- d. コース所在地都道府県別集計
- e. 個別コース別集計

を実施し、比較することにより入場者全体像を記述する。

需要全体（全ゴルファー）データとして総務省・平成23年社会生活基本調査を引用する。

<アンケート用紙>

平日



ゴルフ需要調査 アンケート

本日は当ゴルフ場をご利用頂き有り難うございます。

ゴルフ需要調査の為、お手数ですが下記アンケートにご協力をお願い申し上げます。

※該当するものに○印をお付け下さい。_____下線部分は各自でご記入願います。

- 性別 (1. 男性 2. 女性) ●年齢 (_____ 歳)
- お住まい 都道府県(_____) ・ (_____ 区市町村) / Country (_____)
- 当ゴルフ場への交通手段 1. 車 2. 公共交通機関 3. その他 (_____)
- ご自宅から当ゴルフ場までの所要時間は (_____ 分)
- 職業 (1. 会社員 2. 公務員 3. 自営業 4. 専業主婦 5. 家事手伝い
6. 学生 7. 無職 8. その他 (_____))
- ゴルフ歴 (・ 1年未満 / ・ 3年以内 / ・ 5年以内 / ・ 10年以内
・ 15年以内 / ・ 20年以内 / ・ 21年以上)
- 年間プレー回数 ・ 今日初めて / ・ 2～5回以内 / ・ 6～10回以内
・ 11～20回以内 / ・ 21～30回以内 / ・ 31回以上
- クラブ月例会や各地区連盟主催競技等のゴルフ競技出場経験（プライベートコンペは除く）
(1. 有り (スクラッチ競技 ・ ハンディ競技) / 2. 無し)
注) スクラッチ競技はグロス・スコア、一方のハンディ競技はネット・スコアにて順位を決定するをさします。
- 今後ゴルフ競技に出場希望されますか
(1. 希望する(スクラッチ競技 ・ ハンディ競技) / 2. 希望しない)
- 最近18ホールの平均スコア (_____)
- ハンディキャップ インデックス (旧JGAハンディキャップ) の所有
(1. 持っている (ハンディ _____) 2. 持っていない)
- プレー代、交通費、食費などを含めて1ラウンドのゴルフに支払える妥当な金額
平日 _____ 円 / 土日 _____ 円
- 過去当ゴルフ場の利用(・ なし / ・ 5回以内 / ・ 10回以内 / ・ 11回以上)
- 他コース会員権の所有 (1. 所有している / 2. 所有していない)

以上

※土曜日も設問は同一である

<回収状況>

回収率は全体で入場者の 60. 4% だった。

入場者居住地			
都道府県	土曜	平日	合計
兵庫	544	596	1140
愛知	512	593	1105
東京	655	434	1089
大阪	501	325	826
神奈川	361	316	677
埼玉	275	244	519
千葉	220	280	500
福岡	232	187	419
富山	193	172	365
山梨	174	126	300
長野	165	130	295
石川	145	98	243
岡山	102	108	210
京都	103	93	196
徳島	85	98	183
岐阜	76	86	162
三重	75	80	155
鳥取	82	70	152
愛媛	96	49	145
奈良	58	71	129
茨城	55	56	111
滋賀	52	43	95
北海道	59	36	95
沖縄	35	52	87
香川	42	31	73
群馬	24	47	71
栃木	13	56	69
静岡	37	9	46
福井	27	1	28
広島	16		16
宮崎	10	3	13
和歌山	12		12
島根	6	5	11
福島	2	7	9
山口	4	2	6
鹿児島	5	1	6
新潟	2	4	6
佐賀	5		5
宮城	1	3	4
高知	4		4
大分	2		2
長崎	2		2
秋田	1		1
無回答	40	65	105
総計	5110	4577	9687

(降順)

コース所在地			
都道府県	土日	平日	総計
兵庫	865	791	1656
千葉	662	795	1457
愛知	405	520	925
福岡	255	196	451
長野	234	190	424
山梨	274	139	413
富山	205	182	387
岐阜	176	167	343
大阪	211	129	340
三重	149	167	316
東京	149	150	299
群馬	167	110	277
石川	166	99	265
岡山	134	127	261
静岡	132	122	254
滋賀	107	101	208
栃木	52	144	196
埼玉	193		193
徳島	94	99	193
茨城	87	63	150
愛媛	75	47	122
鳥取	59	58	117
沖縄	46	52	98
香川	63	33	96
北海道	62	33	95
京都	48	40	88
宮崎	40	23	63
総計	5110	4577	9687

(降順)

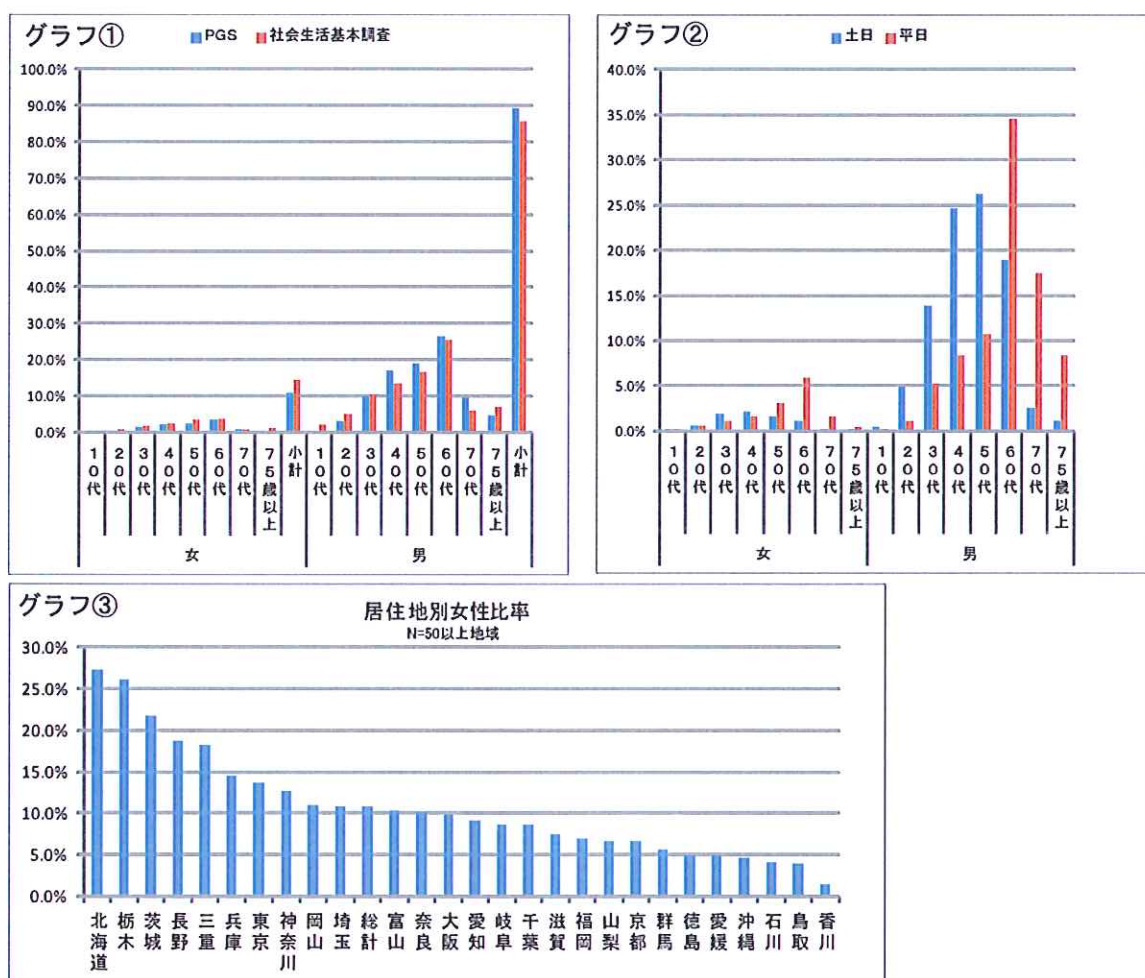
<PGS入場者全体特性> “コース入場者の特性把握によるゴルフ振興基礎資料”

(1) 性・年齢別特性

PGS入場者の性・年齢構成は社会生活基本調査（グラフ①ゴルフ行動者全体の性・年齢構成 但しゴルフ練習場入場者を含む）と比較して、

- ①平日女性率は全体需要14.4%に対して14.1%と差がない。
- ②しかし土曜女性率は7.6%に半減する。
- ③男性40・50・75歳以上は全体需要より多い。
- ④男性30・40・50代は土曜に多くなる。（グラフ②）
- ⑤男性60代以上は逆に平日に多くなる
- ⑦女性比率（グラフ③）は最大・北海道：27.4%から最小・香川：1.4%まで居住地による差異が大きい。

平日は女性・シニアが主体であり、土曜日は30～50代男性が多くなることが調査結果でも実証された。女性比率は地域によってまだ差が大きく女性市場開拓余地が大きいことを示している。



(2) ゴルファーの移動状況

「どこに住む（居住地）ゴルファーがどこでプレー（プレー地＝コース所在地）したか？」はゴルファーの移動範囲およびコースの集客範囲（商圈）を示し、営業・集客活動の重要データである。特に東名阪等の大市場ではこれまで実態が掴みがたかった。今回の調査によりゴルファーの広域移動状況の一端を解明することが出来た。今回調査参加PGS加盟コース入場者が選択したプレー地には下記の傾向が存在する。

- ①東京居住者→千葉、静岡

②神奈川居住者→千葉、静岡

③大阪居住者→兵庫、三重

④埼玉→千葉、群馬、栃木

⑤京都→滋賀、兵庫

⑥奈良→三重、兵庫

⑦静岡→岐阜

県内プレー比率（表①）、県内集客率（表②）を参照頂きたい。富山県の場合、県内プレー比率98%・県内集客率93%であり、まったくの「地産・地消」でゴルフ場ビジネスが成立している。富山県に立地するコースは地元富山県のゴルフ需要動向を注視すればよい。逆に地元比率84%・県内集客率29%の千葉県の場合、地元客の県外流失は16%しかなく、71%もの顧客を県外に依存している。千葉県のゴルフ場は千葉県の需要動向のみでは経営を判断しがたい。

今後も多くのコースが参加して、このゴルファー移動状況を掌握すれば「地域別最適ゴルフ場立地数」が明らかになる。

（３）交通手段

ゴルファーによりコースへの交通手段選択も異なり、車利用率は決して一様ではない。地方の100%に対し東京、神奈川は80%台である（表③）。曜日別では土曜に対し、平日僅かに上昇する。性・年齢別では男性の年齢による差が見られないが、女性の70代以上の車利用率は低下する（グラフ①）。

表①

県内プレー比率	
居住地	地元比率
沖縄	98.9%
富山	98.1%
徳島	96.7%
福岡	96.4%
兵庫	95.1%
石川	95.1%
岡山	93.3%
北海道	92.6%
香川	90.4%
長野	87.8%
山梨	86.3%
千葉	84.0%
愛媛	82.1%
群馬	80.3%
岐阜	77.2%
栃木	76.8%
愛知	74.7%
三重	73.5%
茨城	66.4%
滋賀	64.2%
鳥取	62.5%
東京	37.9%
静岡	34.8%
大阪	33.5%
京都	24.5%
埼玉	11.8%
神奈川	0.0%
奈良	0.0%

表②

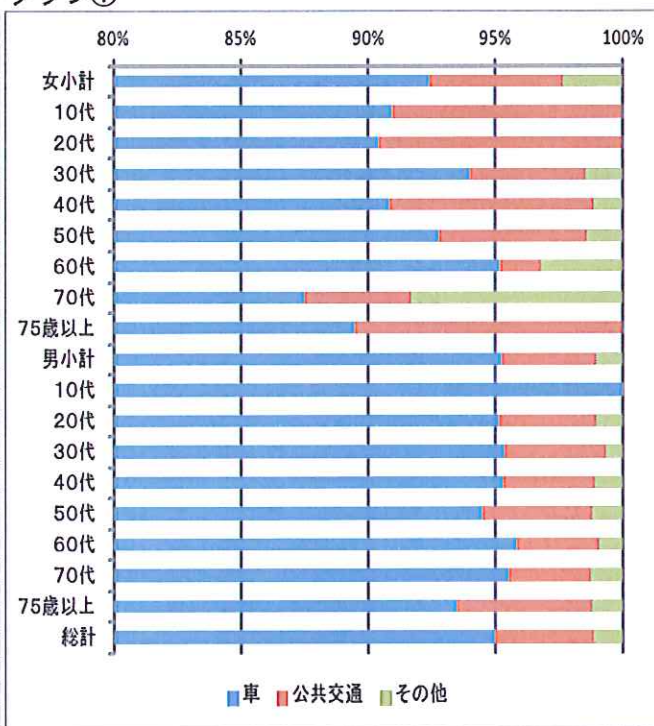
県内集客率	
コース所在地	居住地
愛媛	97.5%
北海道	92.6%
富山	92.5%
徳島	91.7%
福岡	89.6%
愛知	89.2%
沖縄	87.8%
石川	87.2%
大阪	81.5%
鳥取	81.2%
東京	75.3%
岡山	75.1%
長野	69.3%
香川	68.8%
兵庫	65.5%
山梨	62.7%
京都	54.5%
茨城	48.7%
岐阜	36.4%
三重	36.1%
埼玉	31.6%
千葉	28.8%
栃木	27.0%
滋賀	23.6%
群馬	20.6%
宮崎	19.0%
静岡	6.3%

N数=50以上

表③

居住地	土日					構成率				
	回答数									
	車	公共交通	その他	空白	総計	車	公共交通	その他	空白	総計
千葉	175	36	5	4	220	79.5%	16.4%	2.3%	1.8%	100.0%
東京	529	115	7	4	655	80.8%	17.6%	1.1%	0.6%	100.0%
神奈川	304	52	2	3	361	84.2%	14.4%	0.6%	0.8%	100.0%
埼玉	242	30	1	2	275	88.0%	10.9%	0.4%	0.7%	100.0%
茨城	52	2		1	55	94.5%	3.6%		1.8%	100.0%
山梨	167	3	4		174	96.0%	1.7%	2.3%		100.0%
大阪	481	10	7	3	501	96.0%	2.0%	1.4%	0.6%	100.0%
京都	99	1	2	1	103	96.1%	1.0%	1.9%	1.0%	100.0%
愛知	496	2	9	5	512	96.9%	0.4%	1.8%	1.0%	100.0%
福岡	227	1	3	1	232	97.8%	0.4%	1.3%	0.4%	100.0%
奈良	57			1	58	98.3%			1.7%	100.0%
北海道	58		1		59	98.3%	0.0%	1.7%		100.0%
石川	143			2	145	98.6%			1.4%	100.0%
三重	74	1			75	98.7%	1.3%			100.0%
岐阜	75			1	76	98.7%			1.3%	100.0%
長野	163				165	98.8%		1.2%	0.0%	100.0%
兵庫	538	4	2		544	98.9%	0.7%	0.4%		100.0%
愛媛	95	1			96	99.0%	1.0%			100.0%
富山	192		1		193	99.5%		0.5%		100.0%
岡山	102				102	100.0%				100.0%
徳島	85				85	100.0%				100.0%
鳥取	82				82	100.0%			0.0%	100.0%
滋賀	52				52	100.0%				100.0%

グラフ①



(4) ゴルフ歴

入場者の年齢 × ゴルフ歴の立体分布状況を右に表示した。平日（グラフ①）はゴルフ歴21年以上、年齢60歳以上に集中し、土曜（グラフ②）とは対照的である。この違いに留意した営業施策が求められている。

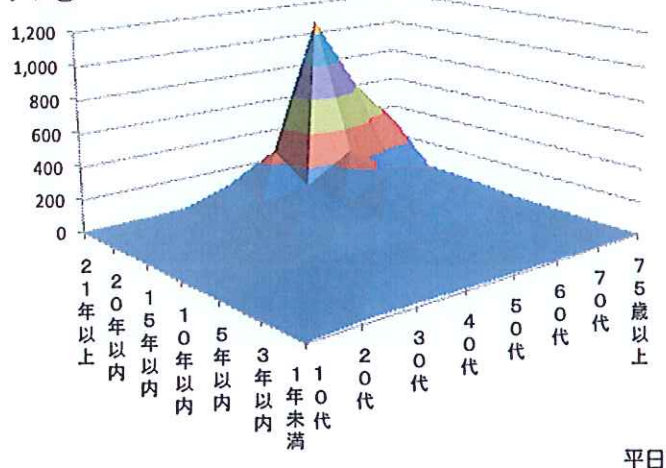
(5) 新生ゴルファー

ゴルフ歴1年未満とはこの1年間にあらたにゴルフを開始した新生ゴルファーにほかならない。新生ゴルファーは回収アンケート総数9687名中337名（3.4%）であった。その性・年齢別内訳を（表①）とした。

新生ゴルファー女性比率は23%で全体ゴルファー女性比率11%の2倍あり、今後女性ゴルファー比率が増加することを示唆している。

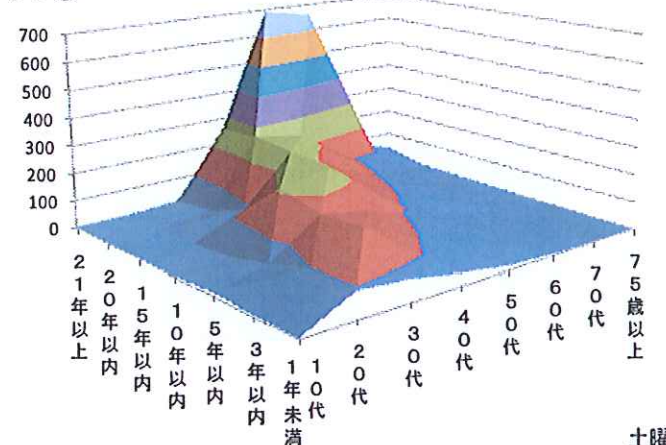
また20・30代の合計比率は64%である。（グラフ③）新生ゴルファーの過半数が20・30代で誕生している。「需要創造・始めようゴルフ」のメインターゲットは20・30代である。

グラフ①



平日

グラフ②

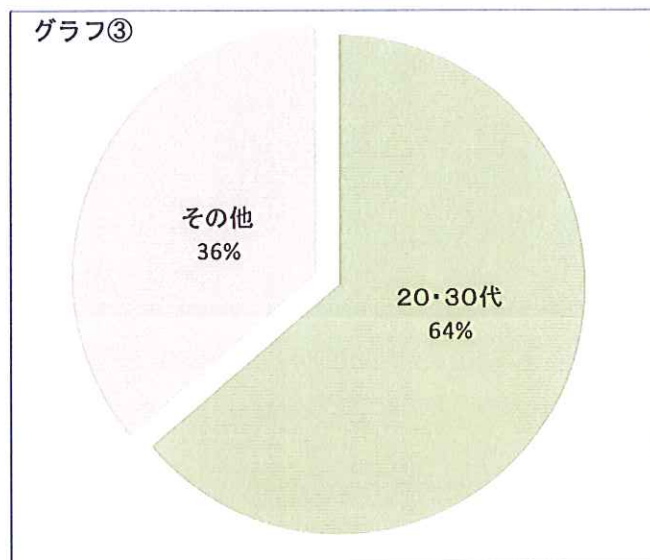


土曜

表① 新生ゴルファー性・年齢別構成

性別	年齢	N数	%
女	10代	3	0.9%
	20代	21	6.2%
	30代	19	5.6%
	40代	18	5.3%
	50代	9	2.7%
	60代	5	1.5%
	70代	1	0.3%
	年齢無回答	3	0.9%
	女性小計	79	23.4%
男	10代	3	0.9%
	20代	94	27.9%
	30代	81	24.0%
	40代	41	12.2%
	50代	19	5.6%
	60代	9	2.7%
	75歳以上	1	0.3%
	年齢無回答	9	2.7%
	男性小計	257	76.3%
性無回答		1	0.3%
総計		337	100.0%
20・30代		215	63.8%

グラフ③



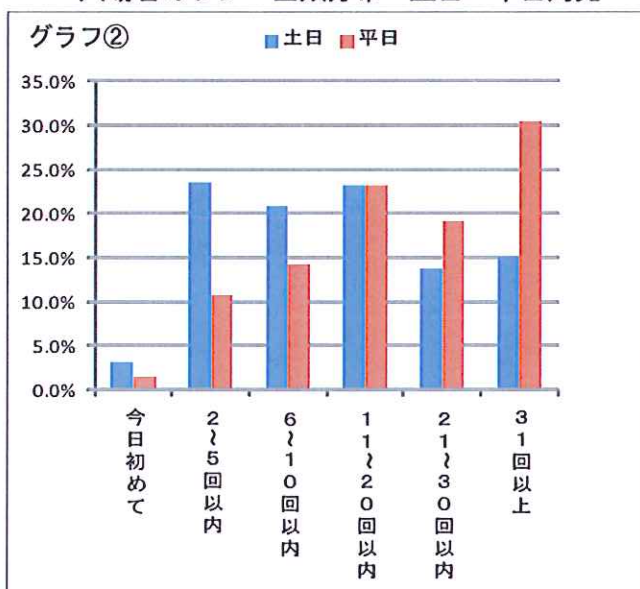
(6) 年間プレー回数

全体需要（社会生活基本調査値）と比較すると（グラフ①），PGS入場者の年間プレー回数構成はライトゴルファー（年間10回未満）が少なく、逆に31回以上のヘビーゴルファーが社会生活基本調査構成率よりも多い。

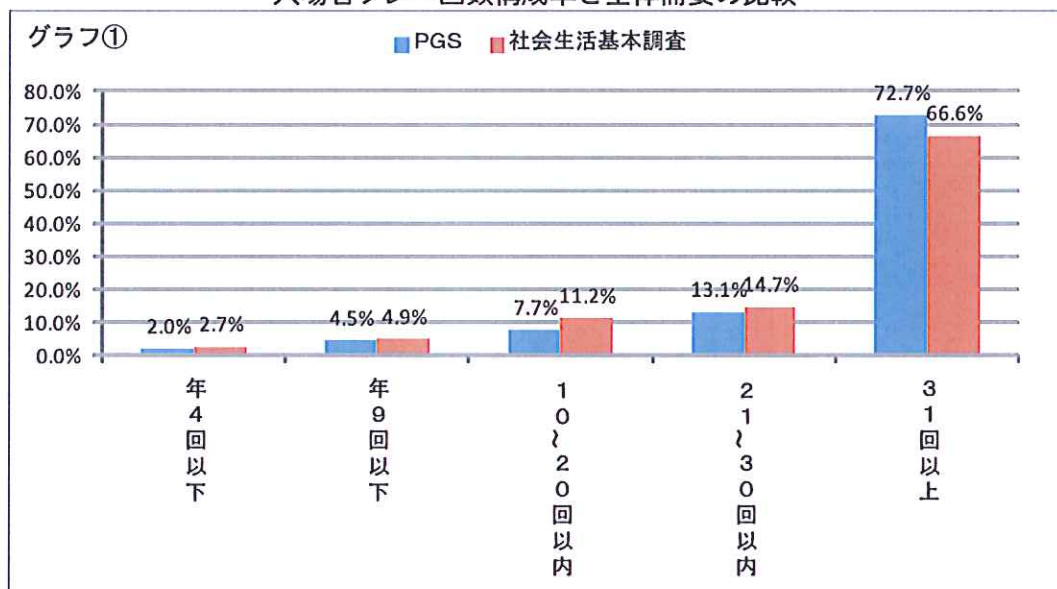
曜日別比較（グラフ②）では、ライトゴルファーは土日多く、平日は年間31回以上のヘビーゴルファーが最大層となる。

プレー回数×年齢分布（グラフ③④）では平日に60代以上ヘビーゴルファー集中が顕著である。

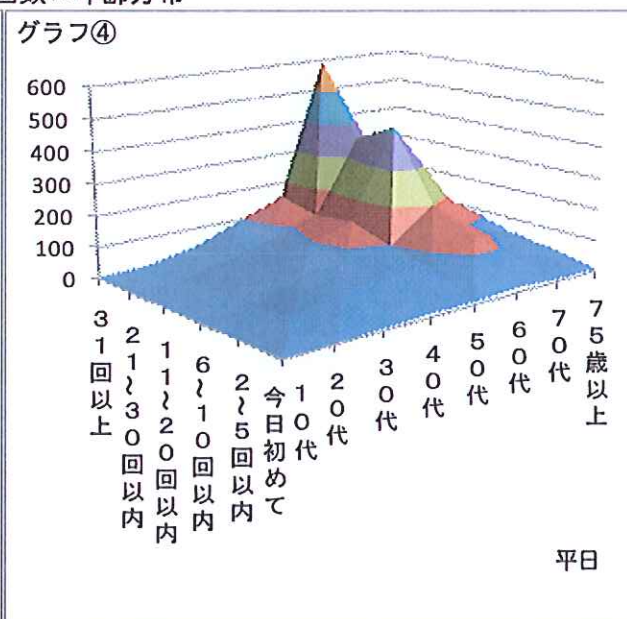
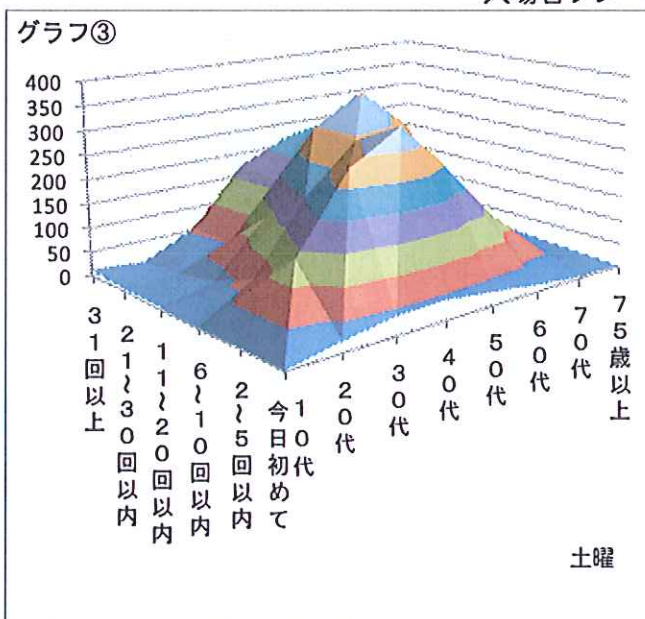
入場者のプレー回数分布 土日：平日対比



入場者プレー回数構成率と全体需要の比較



入場者プレー回数×年齢分布



(7) 平均スコア

PGS入場者の平均スコア階層分布（表①）は90台が38%で最も多い。だがこれはゴルフ場に来場したゴルファーの平均スコア分布であり、ゴルフ人口全体の平均スコア分布ではない。ゴルフ人口全体平均スコア分布は平均年間プレー回数から推計できる。

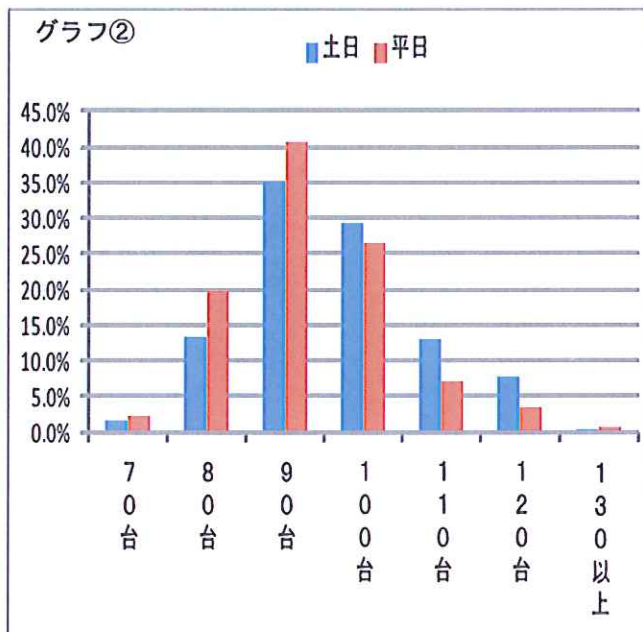
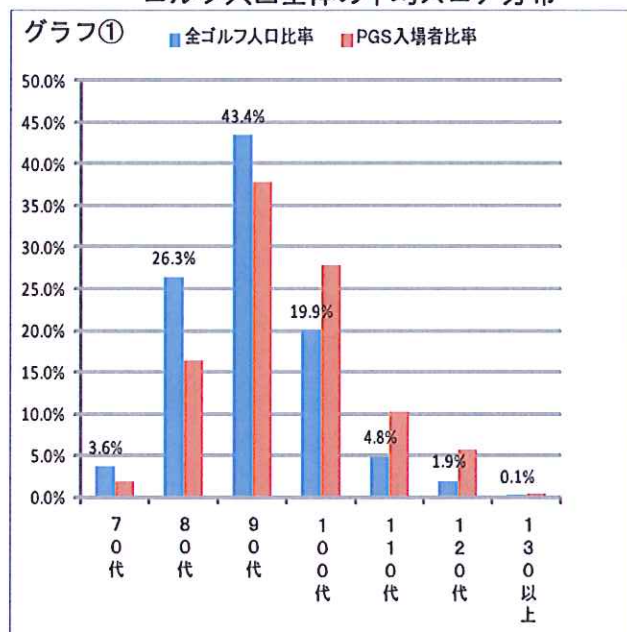
今回調査結果の平均スコア階層 × 年間プレー回数集計より「平均スコア別ゴルフ人口」を推計した。平均スコア90台人口はさらに多くなり、全ゴルファーの43%となる（グラフ①）。

曜日別比較（グラフ②）では平日に上級者が多く、土日にアベレージ層が多くなる。

表① 入場者の平均スコア分布

平均スコア	土日	平日	総計
70台	1.5%	2.3%	1.9%
80台	13.4%	19.6%	16.4%
90台	35.2%	40.6%	37.8%
100台	29.1%	26.5%	27.9%
110台	12.9%	7.1%	10.1%
120台	7.8%	3.3%	5.6%
130以上	0.1%	0.6%	0.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%

ゴルフ人口全体の平均スコア分布



・平均スコア階層別ゴルフ歴構成

平均スコア階層別のゴルフ歴分布（表②）はゴルファーの技術向上時間経過を知ることができ興味深い。平均スコア100台以上ではゴルフ歴21年以上の比率が高い。逆に120台以下ではゴルフ歴3年以内が高く対照的である。「永くゴルフを継続する条件は平均スコア100台以上に上達する」ことが必要条件である。

平均スコア各階層のゴルフ歴構成率

表②

ゴルフ歴	70台	80台	90台	100台	110台	120台	130以上	総計
1年未満	0.6%	0.1%	0.2%	1.2%	4.0%	10.8%	20.0%	3.5%
3年以内	2.4%	1.1%	2.4%	5.4%	15.0%	30.7%	36.7%	6.9%
5年以内	6.1%	2.8%	4.6%	9.6%	16.4%	17.6%	16.7%	7.9%
10年以内	8.5%	6.4%	10.2%	15.1%	18.5%	13.3%	16.7%	11.6%
15年以内	7.9%	10.9%	11.3%	13.9%	11.3%	8.8%	3.3%	11.4%
20年以内	12.8%	14.9%	15.4%	16.0%	12.0%	8.4%	6.7%	14.1%
21年以上	61.0%	63.7%	55.7%	38.2%	22.4%	10.2%	0.0%	44.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(8) 希望料金

バブル崩壊後コース入場者の減少が続き、プレー料金の値下げ競争に苦しむコースが多い。今回の調査では交通費等を含むプレー妥当希望金額を設問した。回答結果は希望金額が狭い範囲に集中することはなかった。回答者は普段の支払い実績をベースに希望金額を回答したと推察される。従って地域間の料金差（その地域ごとの価格競争実態）をかなり正確に反映していると考えられる。入場者の属性別に希望料金を分析することは今後個別コース経営の貴重な資料となる。（希望金額3000円未満及び30000円以上の回答は集計から除外した。）

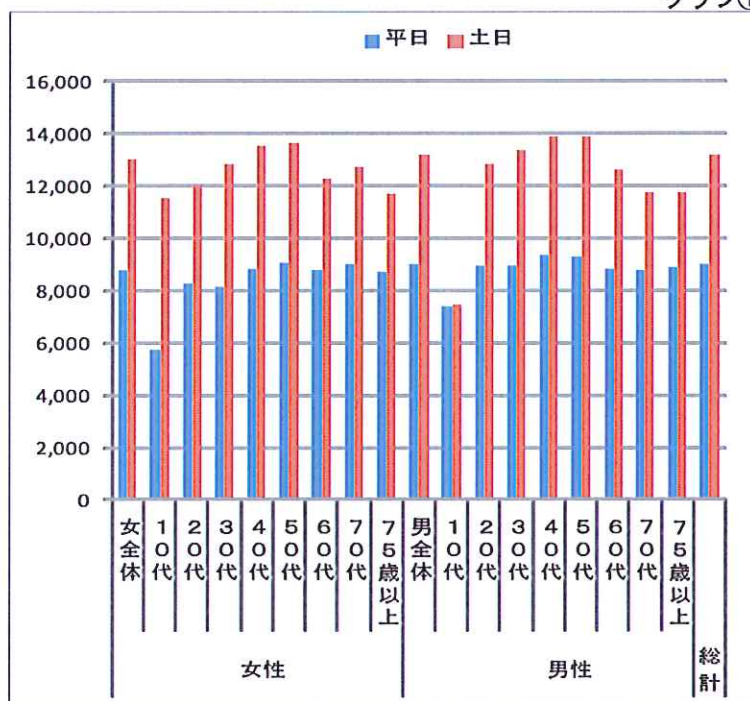
1. 性・年齢別

性・年齢別平均希望料金とした。（表①、グラフ①）平日希望料金が土日よりバラついていない。平日料金の価格競争が激しい結果であろう。女性の希望料金が男性より低い。年齢別では30代未満と60代以上が低い。

表① 入場者の性・年齢別平均妥当希望金額

性	年齢	平日	土日
女性	女性全体	8,790	13,007
	10代	5,750	11,500
	20代	8,282	12,014
	30代	8,162	12,817
	40代	8,813	13,513
	50代	9,042	13,671
	60代	8,758	12,248
	70代	9,015	12,738
	75歳以上	8,719	11,667
男性	男性全体	9,015	13,184
	10代	7,407	7,468
	20代	8,924	12,823
	30代	8,926	13,386
	40代	9,321	13,875
	50代	9,308	13,868
	60代	8,835	12,606
	70代	8,757	11,777
	75歳以上	8,889	11,760
総計		8,990	13,164

グラフ①



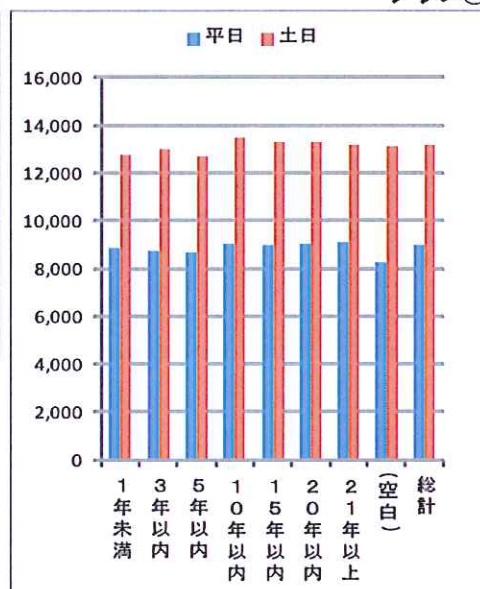
2. ゴルフ歴

ゴルフ歴による希望料金の差は少ない。（表②、グラフ②）

表②

ゴルフ歴	平日	土日
1年未満	8,847	12,779
3年以内	8,751	12,979
5年以内	8,692	12,711
10年以内	9,003	13,463
15年以内	8,959	13,303
20年以内	9,022	13,270
21年以上	9,081	13,159
無回答	8,259	13,105
総計	8,990	13,164

グラフ②

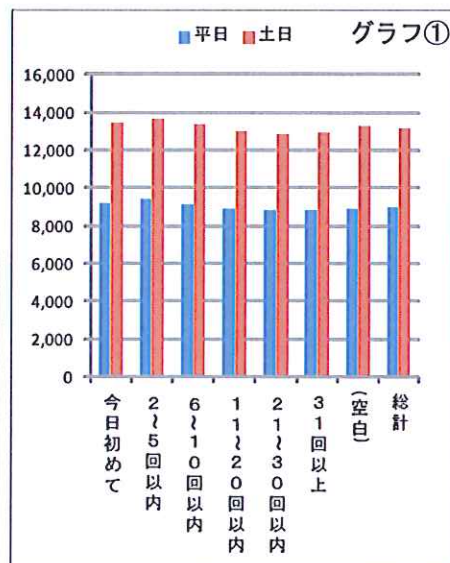


3. 年間プレー回数

年間プレー回数別平均希望料金を（表①、グラフ①）とした。
回数の多いヘビーゴルファーほど希望金額がより低くなると予想されたが結果では大きな差異は見られない。

表①

年間P回数	平日	土日
今日初めて	9,157	13,419
2～5回以内	9,396	13,648
6～10回以内	9,101	13,336
11～20回以内	8,897	13,021
21～30回以内	8,815	12,873
31回以上	8,830	12,919
無回答	8,875	13,291
総計	8,990	13,164

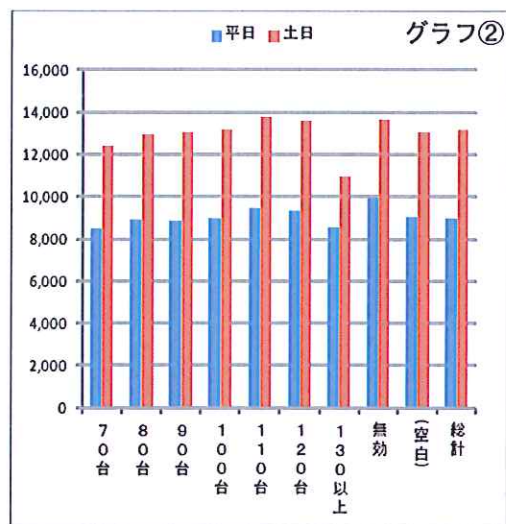


4. 平均スコア

平均スコア別平均希望料金を（表②、グラフ②）とした。
70台がやや低くなるが大きな差異は見られない。

表②

平均スコア	平日	土日
70台	8,474	12,398
80台	8,910	12,929
90台	8,870	13,053
100台	8,947	13,182
110台	9,442	13,771
120台	9,343	13,607
130以上	8,537	10,952
無効	9,952	13,664
無回答	8,994	13,074
総計	8,990	13,164

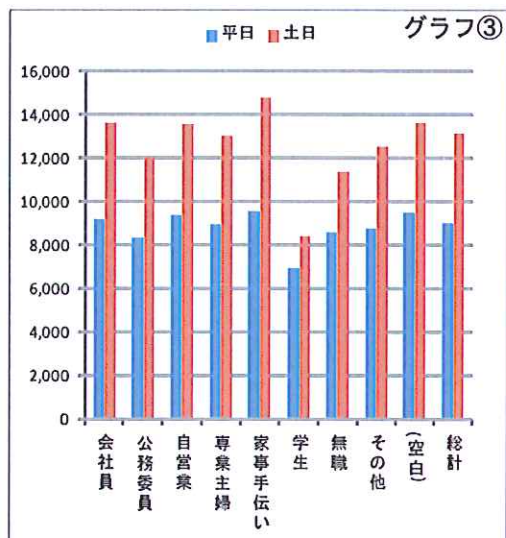


5. 職業

職業別平均希望料金を（表③、グラフ③）とした。
当然ながら学生の平日希望料金が低い。

表③

職業	平日	土日
会社員	9,168	13,650
公務委員	8,338	12,046
自営業	9,387	13,549
専業主婦	8,947	13,038
家事手伝い	9,538	14,750
学生	6,911	8,404
無職	8,549	11,375
その他	8,777	12,521
無回答	9,479	13,653
総計	8,990	13,164



6. 入場者居住地別平均希望料金

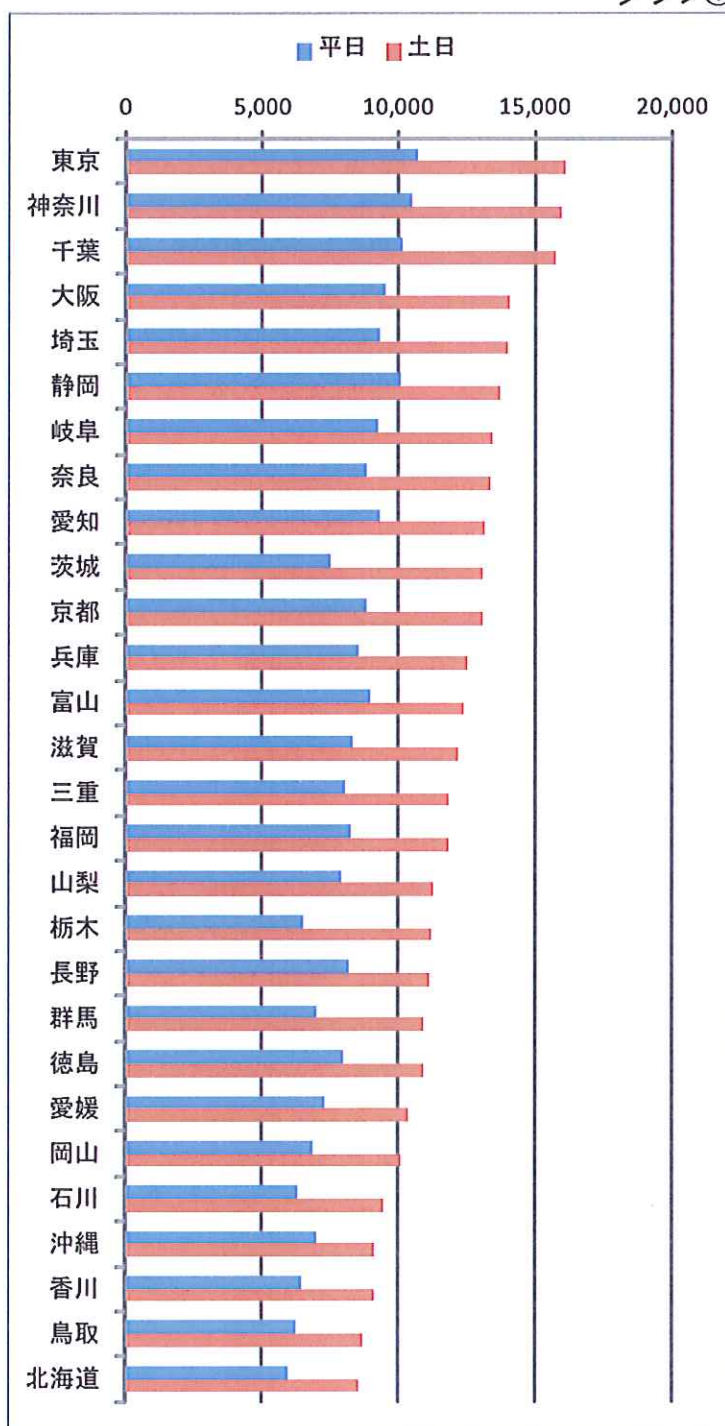
入場者居住地別平均希望料金を（表①、グラフ①）とした。東京が最も高く、次いで神奈川、千葉、大阪など都会地が上位であり、北海道、鳥取、香川、沖縄など地方が下位となる。回答数が50以下の地域は参考値である。

表①

グラフ①

居住地	データの個数		希望料金平均	
	平日	土日	平日	土日
東京	919	826	10,736	16,142
神奈川	594	505	10,528	15,939
千葉	441	364	10,209	15,792
大阪	666	596	9,577	14,096
埼玉	457	392	9,348	14,040
静岡	41	40	10,132	13,743
岐阜	143	117	9,288	13,490
奈良	113	91	8,885	13,412
愛知	993	797	9,328	13,187
茨城	103	83	7,544	13,139
京都	167	130	8,822	13,123
兵庫	1024	802	8,607	12,573
富山	318	297	8,995	12,401
滋賀	82	67	8,360	12,206
三重	143	122	8,086	11,855
福岡	358	327	8,298	11,842
山梨	282	245	7,981	11,280
栃木	62	46	6,589	11,222
長野	261	233	8,219	11,166
群馬	60	50	7,050	10,956
徳島	155	138	8,003	10,936
愛媛	112	112	7,316	10,411
岡山	174	153	6,902	10,083
石川	207	182	6,371	9,483
沖縄	79	63	7,038	9,137
香川	61	48	6,505	9,128
鳥取	138	125	6,276	8,690
北海道	83	77	5,979	8,557
福井	23	25	7,543	10,960
宮崎	13	13	7,077	10,231
広島	13	15	9,808	12,800
島根	10	10	7,850	11,100
和歌山	10	11	9,580	13,818
山口	6	6	8,833	12,400
佐賀	5	5	7,400	11,000
新潟	5	6	9,000	11,667
福島	5	4	7,000	11,500
宮城	4	4	7,500	11,750
高知	3	4	7,667	11,250
鹿児島	3	4	7,000	12,500
長崎	2	1	20,000	15,000
茨城	1	1	5,000	10,000
秋田	1	1	10,000	15,000
大分	1	1	5,000	8,000
(空白)	73	53	8,588	12,249
総計	8414	7192	8,990	13,164

土日希望料金降順



※N数50未満地域は省略

6. プレー地（コース所在地）別希望料金

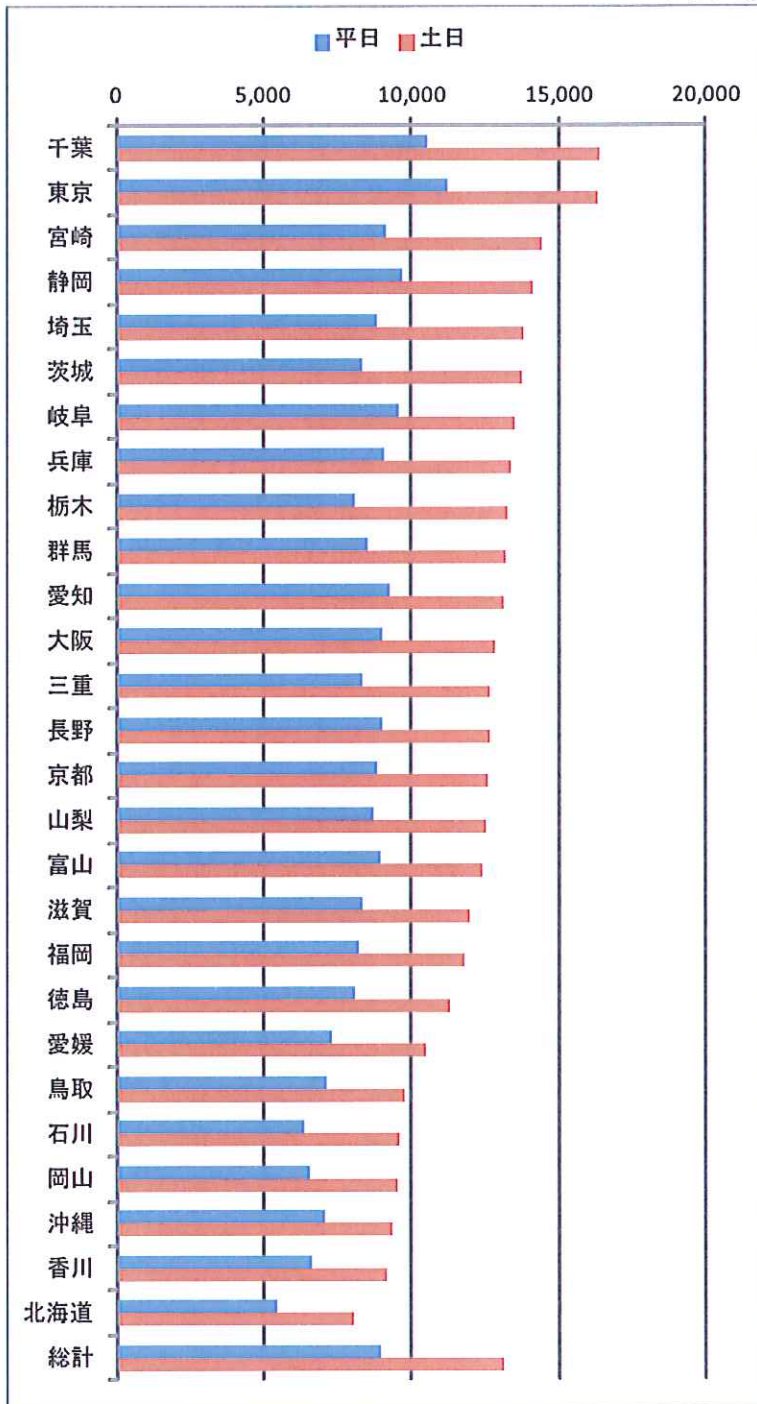
コース所在地別平均希望料金を（表①、グラフ①）とした。所在地別希望料金格差はその地域の価格競争を反映していると考えられる。首都圏と地方では2倍の開きがある。

表①

グラフ①

プレー地	データの個数		希望料金平均	
	平日	土日	平日	土日
千葉	1270	1014	10,587	16,403
東京	266	227	11,213	16,322
宮崎	53	54	9,154	14,453
静岡	227	199	9,683	14,136
埼玉	156	177	8,863	13,827
茨城	134	116	8,354	13,781
岐阜	302	239	9,553	13,526
兵庫	1447	1188	9,070	13,355
栃木	170	144	8,125	13,239
群馬	241	225	8,521	13,172
愛知	834	670	9,297	13,128
大阪	262	241	9,036	12,809
三重	288	242	8,378	12,646
長野	323	296	9,035	12,636
京都	74	54	8,851	12,574
山梨	375	343	8,687	12,535
富山	342	318	8,960	12,409
滋賀	218	148	8,338	11,946
福岡	386	352	8,216	11,765
徳島	162	143	8,115	11,282
愛媛	90	94	7,334	10,502
鳥取	109	95	7,119	9,758
石川	223	202	6,414	9,559
岡山	214	200	6,559	9,523
沖縄	86	71	7,047	9,321
香川	80	64	6,616	9,117
北海道	82	76	5,436	8,071
総計	8414	7192	8,990	13,164

土日希望料金降順



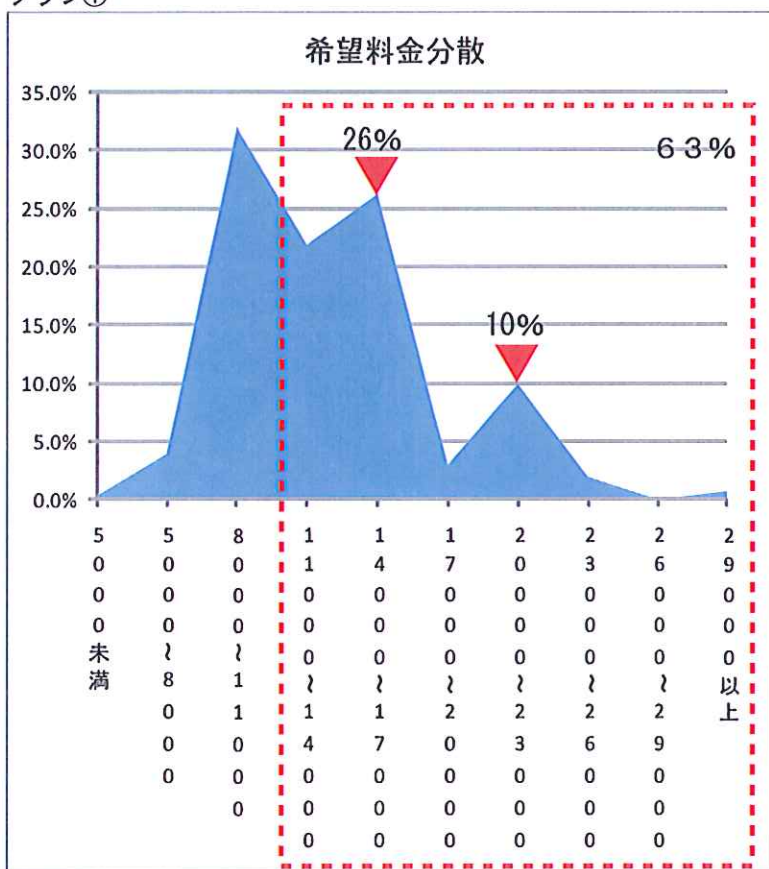
7. 希望料金の分散

土日希望料金の回答を階層分類し分散図（表①、グラフ①）を作成した。平均値は8000円～11000円であるが、全体の32%でしかない。11000円以上には63%も存在するし、セカンドピークである14000円～17000円に26%、20000円～23000円に10%希望者が存在する。ゴルファーはけっして一律に低い料金を望んではない。

表①

希望料金階層	N数	%
5000未満	24	0.3%
5000～8000	279	3.9%
8000～11000	2265	32.0%
11000～14000	1550	21.9%
14000～17000	1857	26.2%
17000～20000	216	3.0%
20000～23000	704	9.9%
23000～26000	140	2.0%
26000～29000	1	0.0%
29000以上	52	0.7%
総計	7088	100.0%

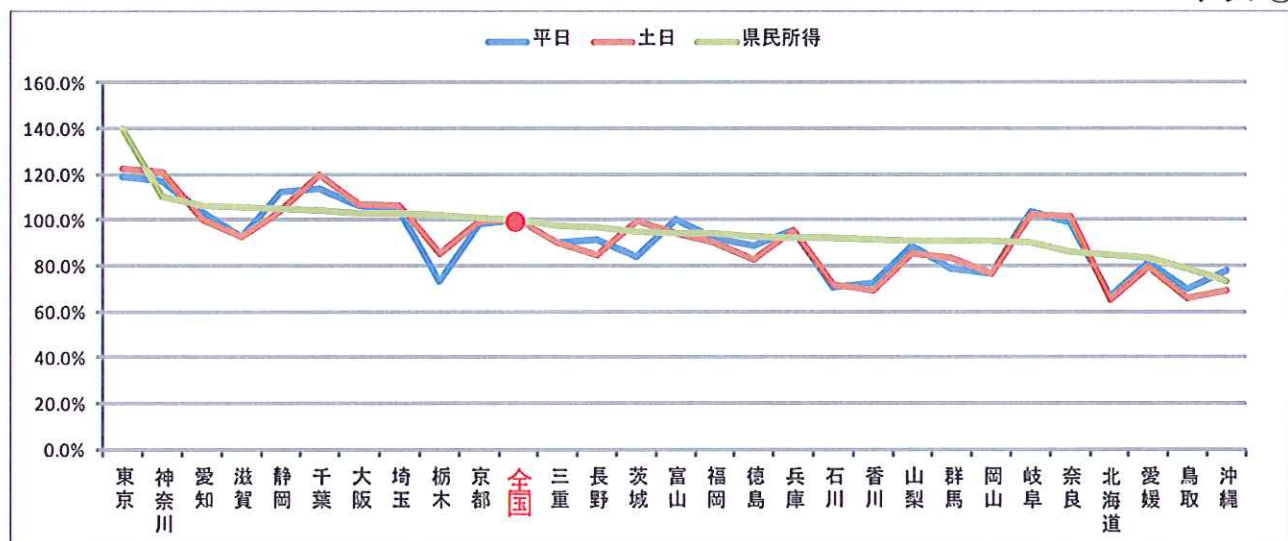
グラフ①



8. 希望料金の地域差

地域により物価水準が異なる。所得が低く、物価水準も低い地域では希望料金もそれなりに低いと考えられる。また立地コース多寡による価格競争にも地域差がある。内閣府・県民経済計算平成21年の県民一人あたり所得とプレー希望料金の全国平均を100%する対比を（グラフ②）とした。県民所得（緑線）より上に位置する地域は希望料金が県民所得水準以上に維持されており、下に位置する地域は価格競争が激しく、その地域の物価水準以上にプレー料金が低くなっていると考えられる。栃木、石川、香川、北海道などが低い。

グラフ②



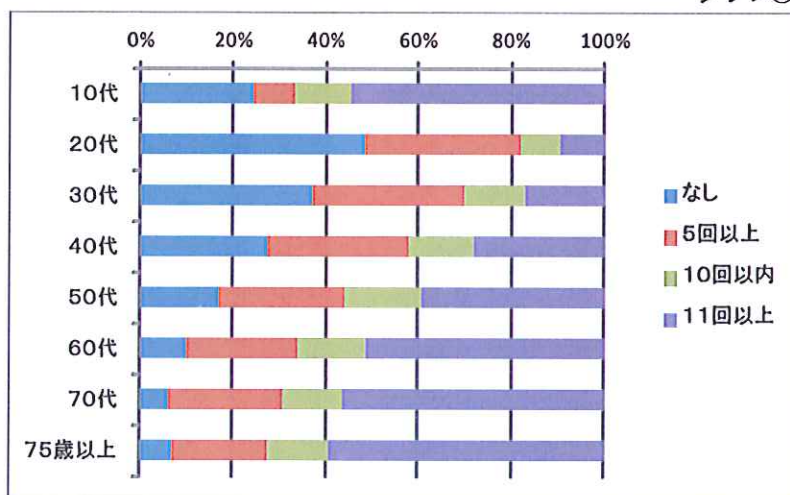
(9) 入場者の過去利用回数

過去利用回数の多い入場者はそのコースのリピーターであり、安定顧客である。リピーター比率が高いほど営業基盤が確かとなる。

1. 年齢別分布

年齢別過去利用回数分布を(グラフ①)とした。年齢が高くなるほど過去11回以上利用者の比率が高くなる。リピーターターゲットはシニア層である。

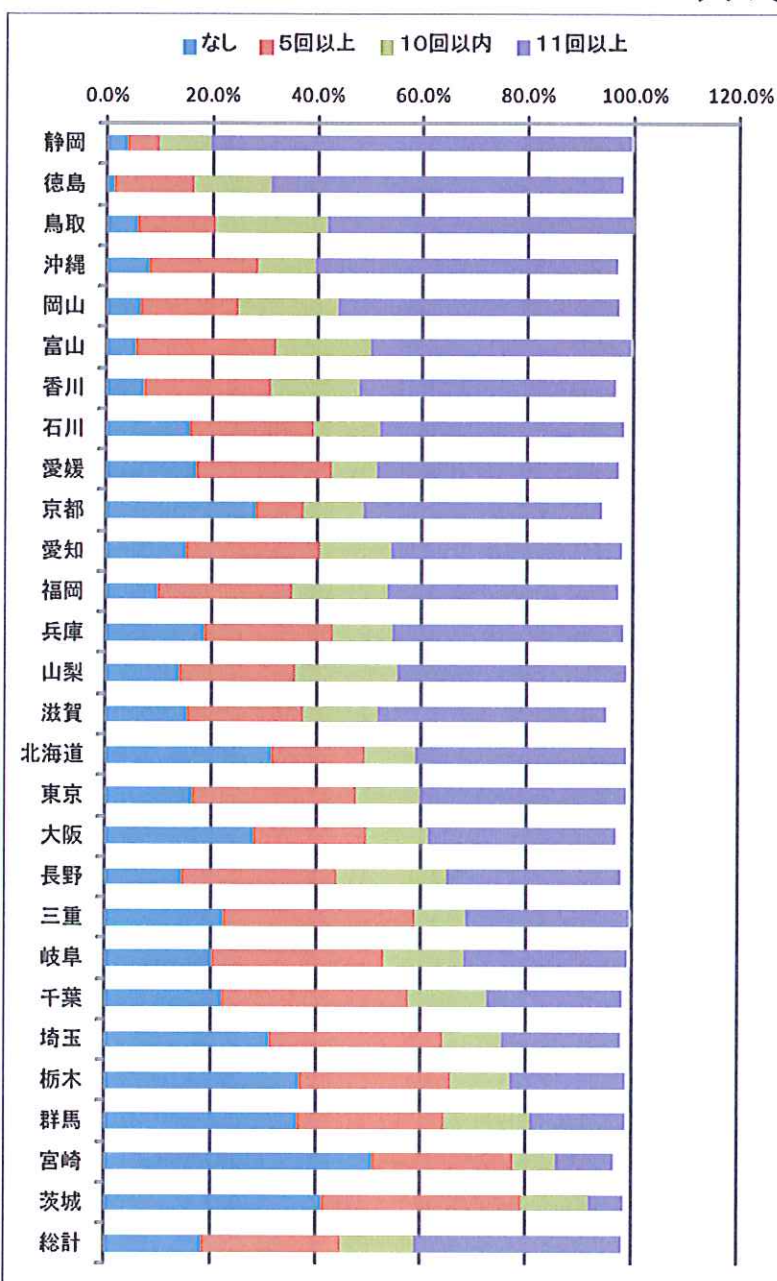
グラフ①



グラフ②

2. プレー地(コース所在地)別分布

コース所在地別過去利用回数分布を(グラフ②)とした。静岡では実に入場者の80%が過去11回以上利用者である。他方、茨城では7%しか存在しない。その差はリピーター囲い込み進展度の違いであり、静岡地区の営業安定度はより高いと言える。



(9) 会員権所有状況

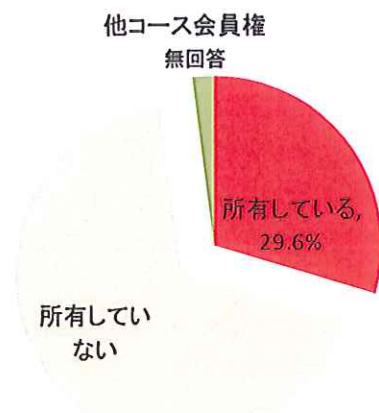
1. 浮動メンバー

入場者のゴルフ歴別会員権所有状況を(表①)、年齢別所有状況を(表②)とした。PGS入場者の30%が他コースの会員である。会員権を所有しながら、ホームコースでなくパブリックコースでプレーする浮動メンバーは高齢者、高ゴルフ歴者で多くなる。

換言すればPGS加盟コースは入場者の30%(グラフ①)を浮動メンバーに依存している。浮動メンバーの来場にはそれなりの強い理由があるはずで、ゴルフ歴の長い高齢者に多いのは恐らく「ゴルフ仲間」の絆によるものと推定される。

10代入場者の35%が会員権保有者であったのは意外である。(N数34名中の12名)

グラフ①



2. プレー地(コース所在地)別

コース所在地別会員権保有状況を(グラフ②)とした。他コース会員権を所有する入場者は徳島、宮崎を除き、東京、千葉、愛知京都、兵庫など大都会地に多い。

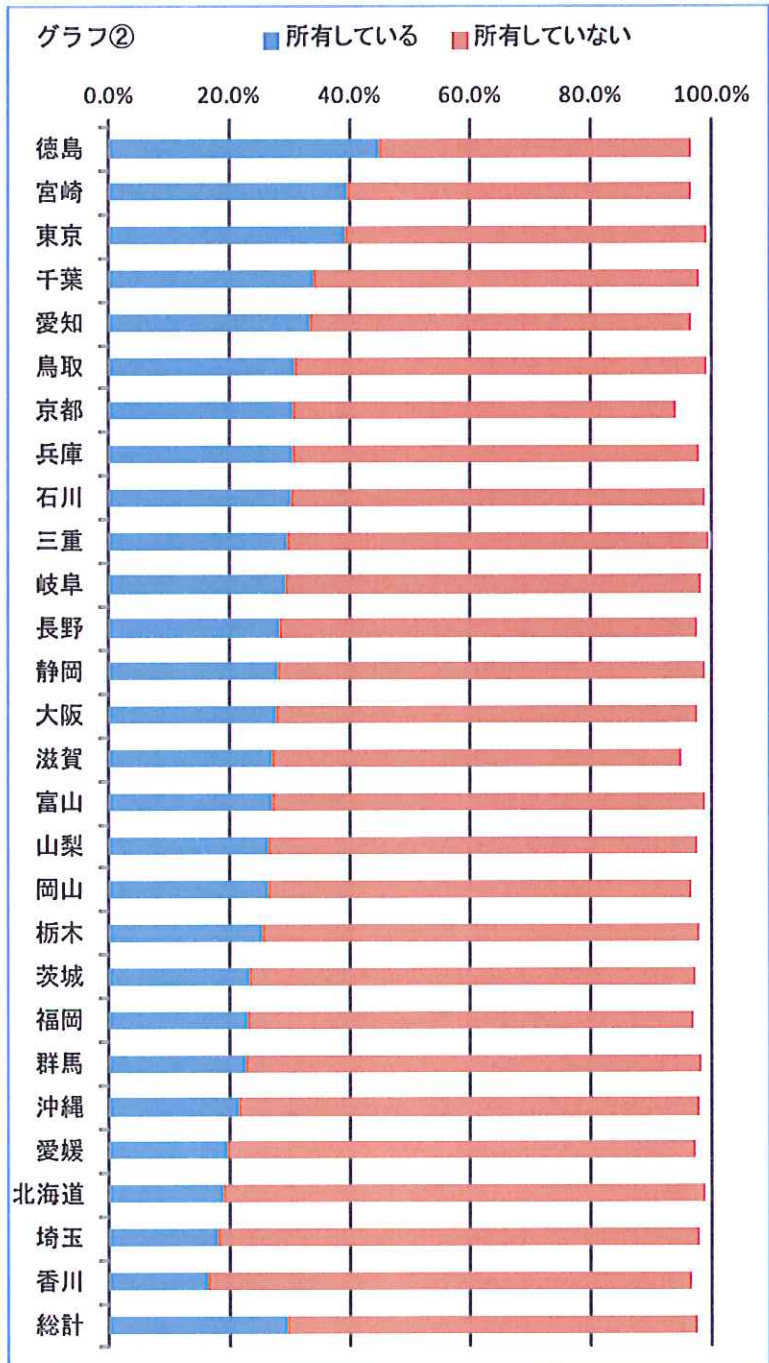
表①

ゴルフ歴	所有している	所有していない	空白	総計
1年未満	5.0%	88.4%	6.5%	100.0%
3年以内	6.9%	89.9%	3.3%	100.0%
5年以内	13.6%	83.8%	2.6%	100.0%
10年以内	18.8%	79.5%	1.7%	100.0%
15年以内	25.0%	72.9%	2.2%	100.0%
20年以内	29.6%	68.5%	1.9%	100.0%
21年以上	42.2%	56.4%	1.5%	100.0%
無回答	16.3%	58.1%	25.6%	100.0%
総計	29.6%	68.2%	2.1%	100.0%

表②

年齢	所有している	所有していない	空白	総計
10代	35.3%	58.8%	5.9%	100.0%
20代	6.2%	89.4%	4.4%	100.0%
30代	8.5%	89.5%	2.0%	100.0%
40代	18.7%	80.0%	1.3%	100.0%
50代	27.5%	71.1%	1.4%	100.0%
60代	38.8%	59.2%	2.0%	100.0%
70代	48.6%	49.6%	1.8%	100.0%
75歳以上	43.6%	52.3%	4.1%	100.0%
無回答	38.4%	54.4%	7.2%	100.0%
総計	29.6%	68.2%	2.1%	100.0%

グラフ②



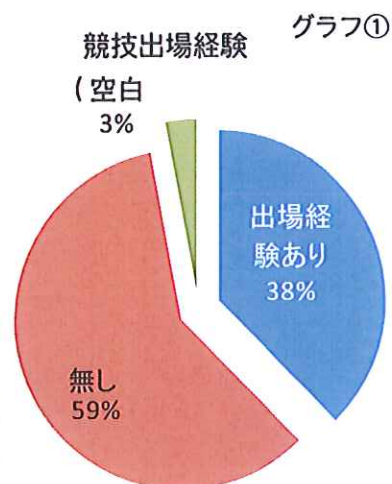
会員権所有率降順

＜アマチュアゴルフ競技に対するニーズ＞

(1) アマチュアゴルフ競技出場経験

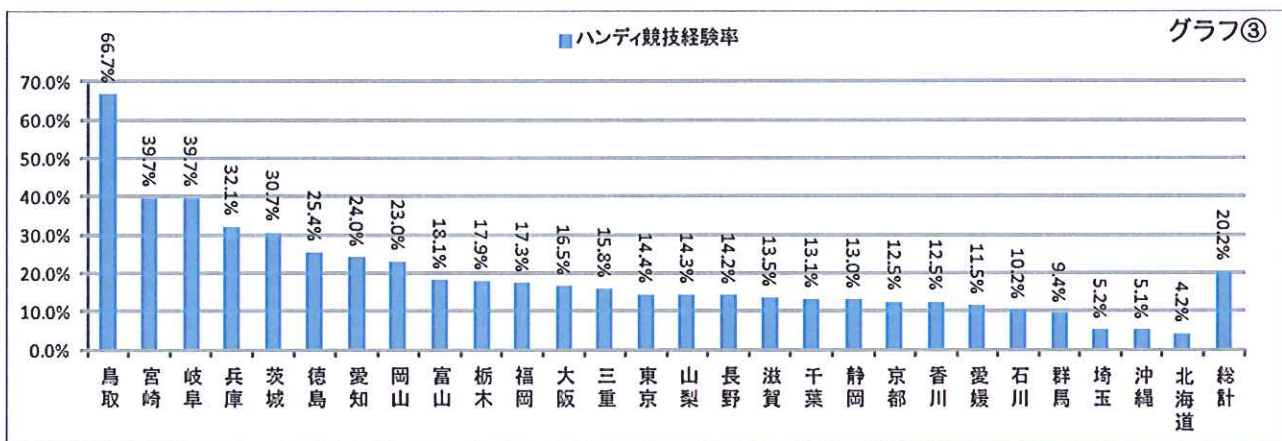
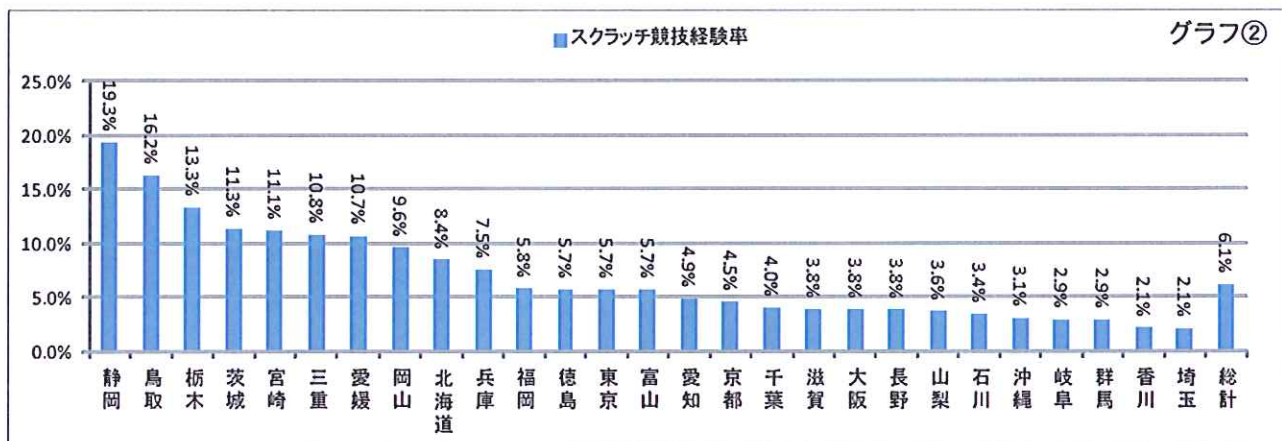
入場者でアマチュアゴルフ競技に「出場経験あり」と回答したのは全体38%であった。(表①グラフ①) 59%が競技に出場することなくゴルフライフをエンジョイしている。

表①	出場経験あり	無し	無回答	総計
競技出場経験	3642 37.6%	5757 59.4%	288 3.0%	9687 100.0%



(2) 出場経験率のコース所在地別差異

コース所在地別の出場経験率を計算した。(グラフ②、③) スクラッチ競技、ハンディ競技ともに地域差が大きい。

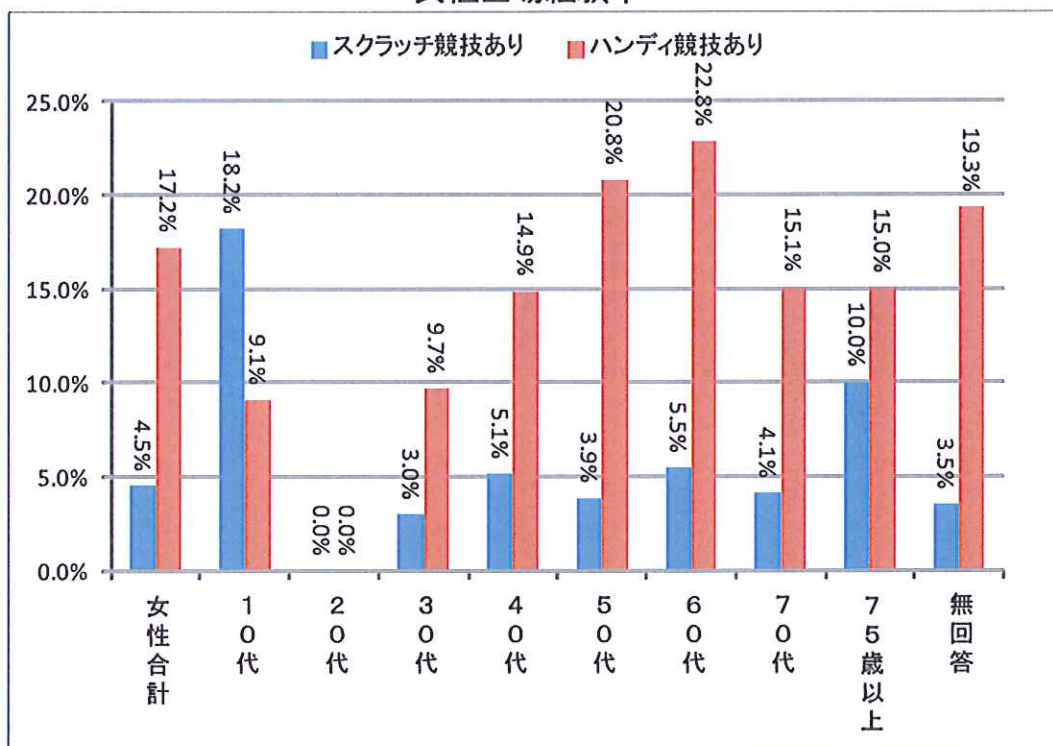


(3) 出場経験者の特性

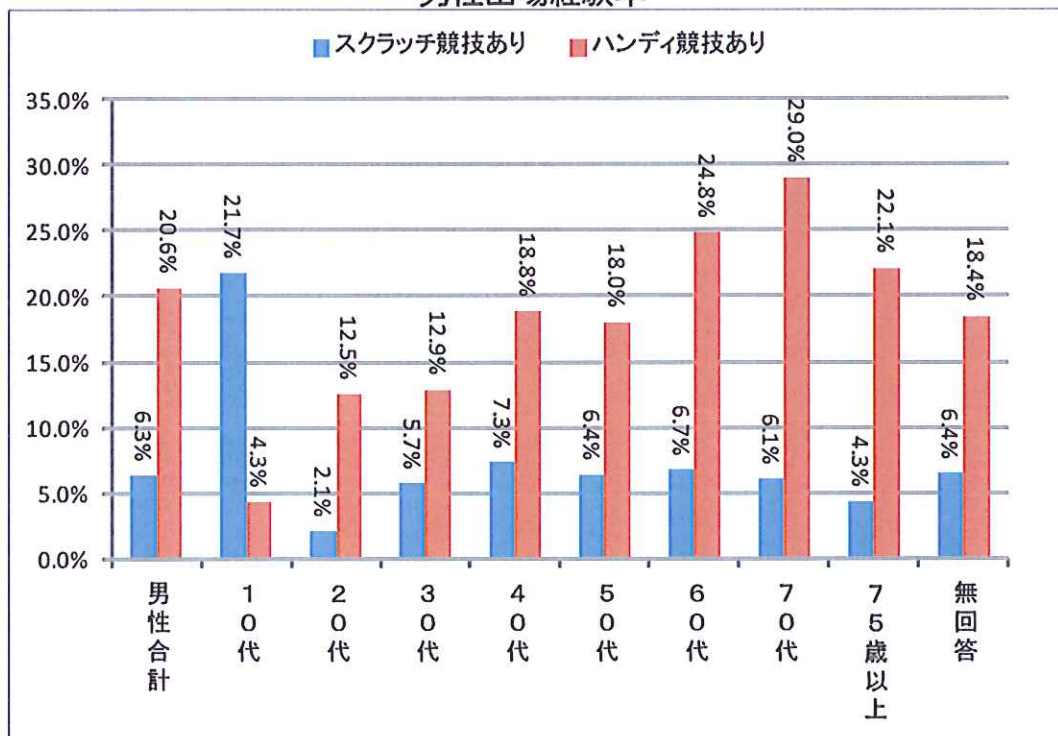
1. 性年齢別出場経験率

10代スクラッチ競技出場経験者が男女とも10代で多い。これはジュニア振興対象者によるものであろう。女性は60代、男性は70代でハンディ競技出場経験率が最高となる。

女性出場経験率



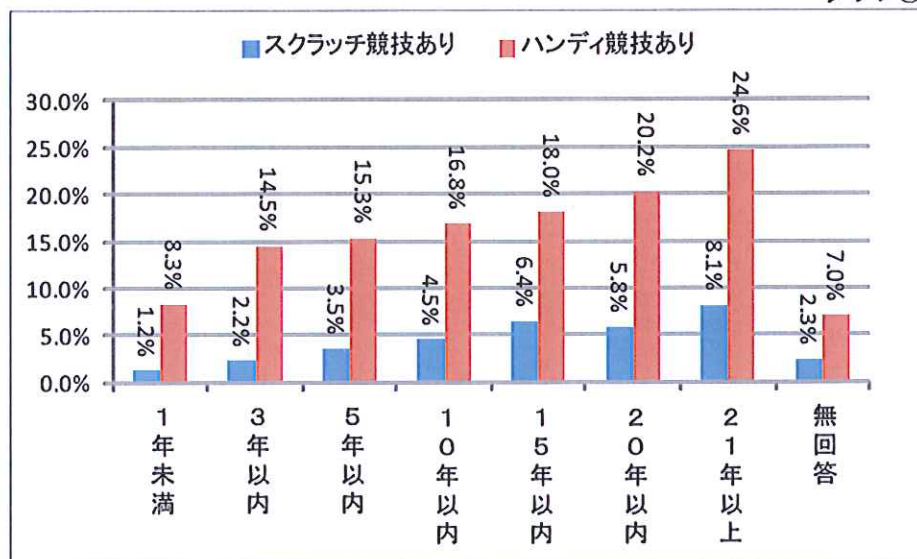
男性出場経験率



2. ゴルフ歴別出場経験率（グラフ①）

ゴルフ歴が永くなるほど出場経験率も上昇する。

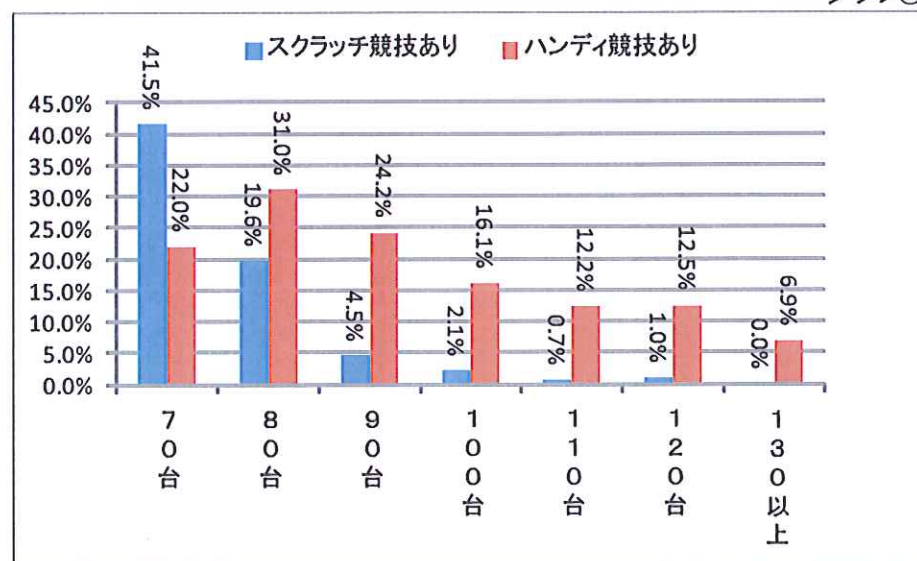
グラフ①



3. 平均スコア別出場経験率（グラフ②）

スクラッチ競技は平均スコア80台以上で急増する。ハンディ競技は平均スコア下級レベルにも存在するが、平均スコア90台以上で急増し、80台で最大となる。

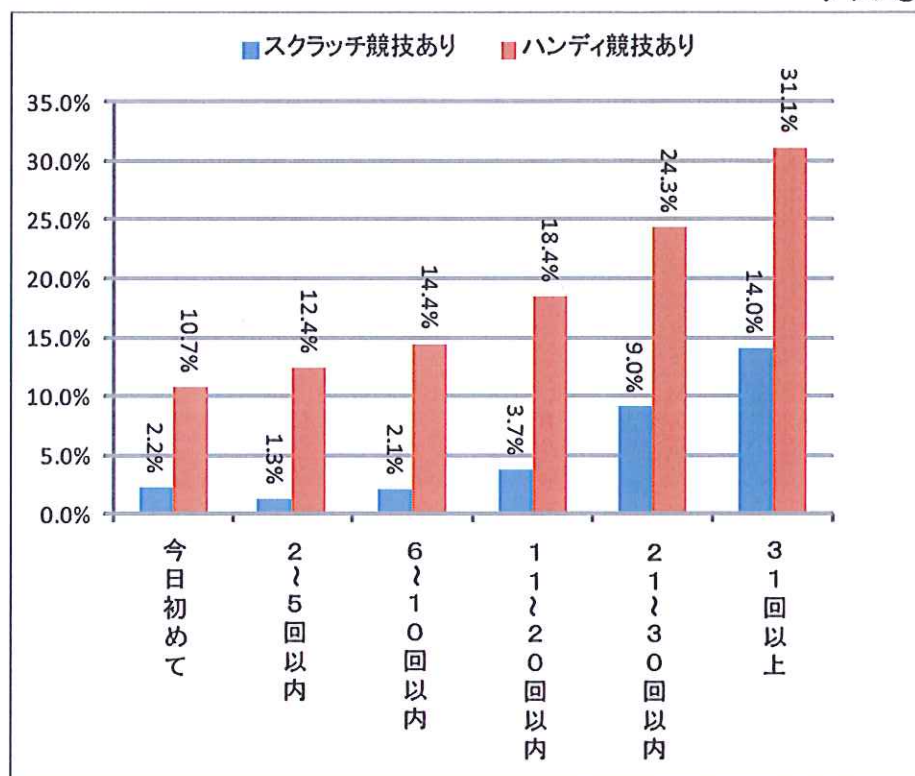
グラフ②



4. 年間プレー回数別出場経験率（グラフ①）

年間プレー回数21回以上のヘビーゴルファーから出場経験率が一段と上昇する。

グラフ①



5. HDCP所有状況

まず回答者の所有するハンディキャップ種類を下記のように分類し、ハンディキャップ種類別所有状況を集計した。(表①、グラフ②)

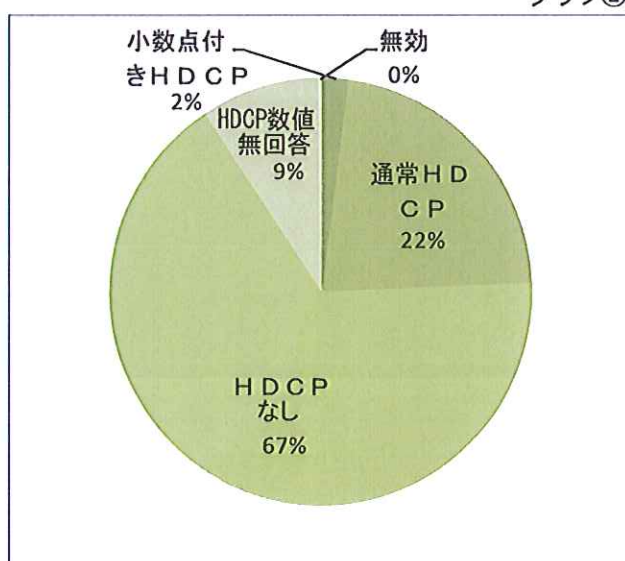
1. 小数点付きHDCP (J-sys HDCP 所有者が含むと考えられる)
2. 通常HDCP (クラブ内オフィシャル HDCP おもわれる整数の数値を回答)
3. 無回答 (HDCPを持っていると回答したがHDCP数値は無回答)

HDCPを持っていない入場者が67%も存在する。また小数点付きHDCP所有者はわずか2%であった。

表①

種類	N数
小数点付きHDCP	200
通常HDCP	2157
HDCPなし	6428
HDCP数値無回答	881
無効	21
総計	9687

グラフ②



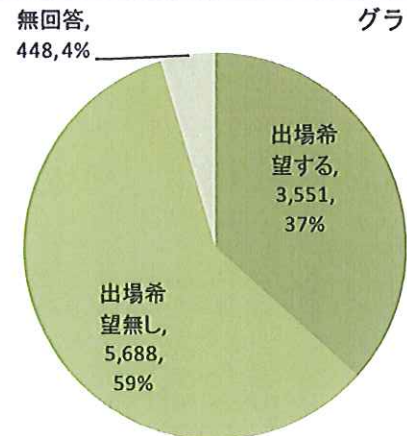
(4) 競技出場希望率

設問「今後ゴルフ競技に出場希望されますか？」に対する回答は（表①、グラフ①）であった。

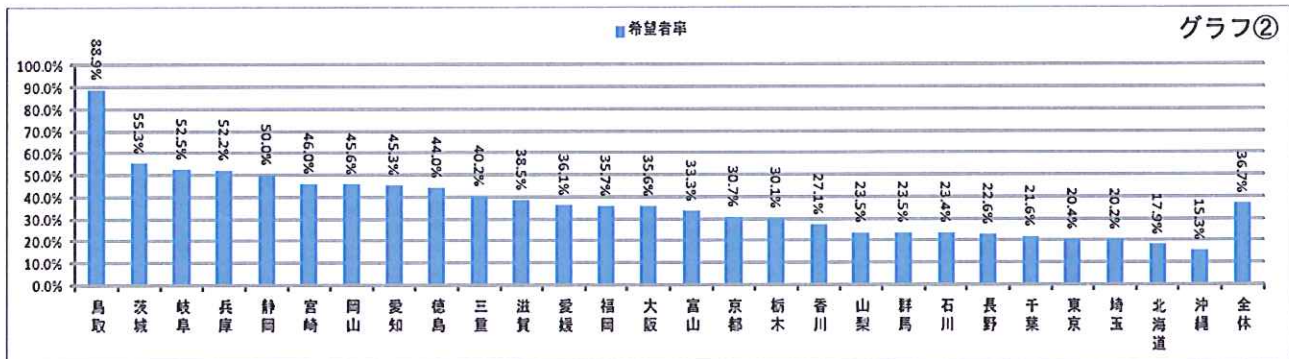
表①

	N数	%
出場希望する	3,551	36.7%
出場希望無し	5,688	58.7%
無回答	448	4.6%
総計	9,687	100.0%

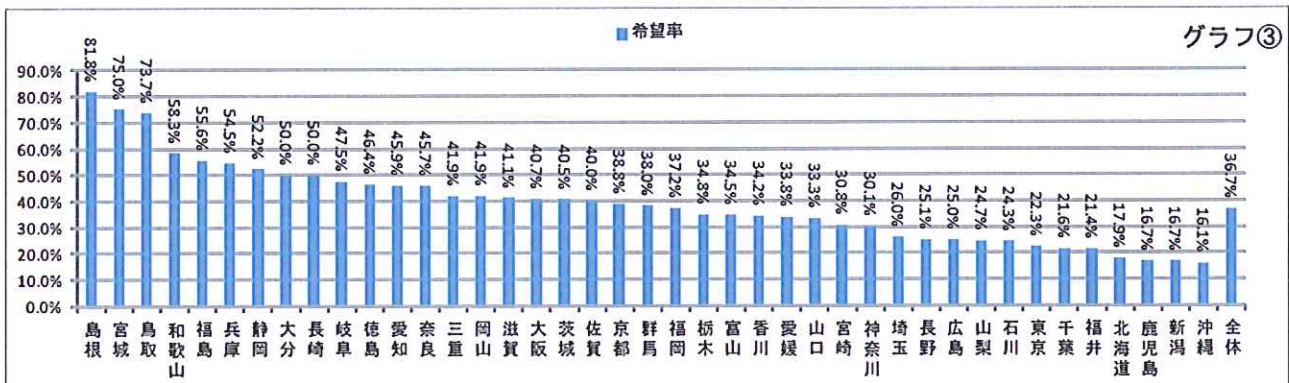
グラフ①



(5) 地域別（コース所在地都道府県別）希望率（グラフ②）



(6) 回答者居住地別希望率（グラフ③）



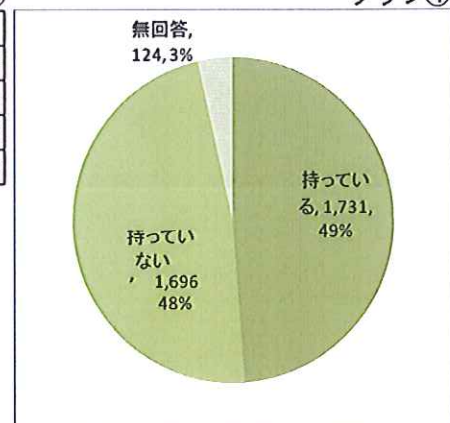
(7) 出場希望者のHDCP所有状況（表②、グラフ④）

全体回答者（入場者）の
17.5%がHDCPを持た
ずに競技出場を希望している。

表②

HDCP所有	N数	%
持っている	1,731	48.7%
持っていない	1,696	47.8%
無回答	124	3.5%
総計	3,551	100.0%

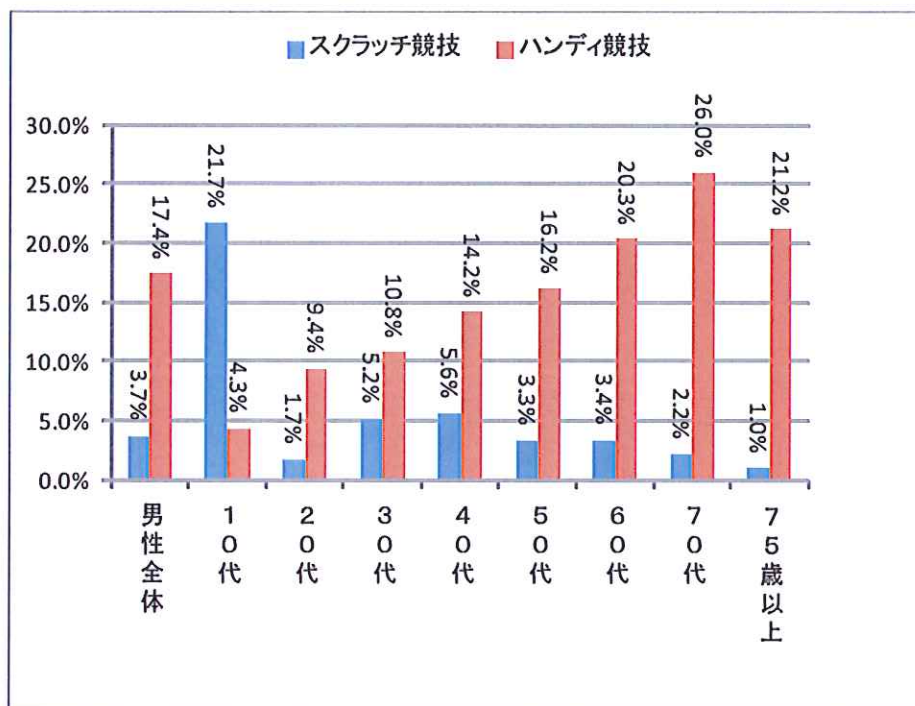
グラフ④



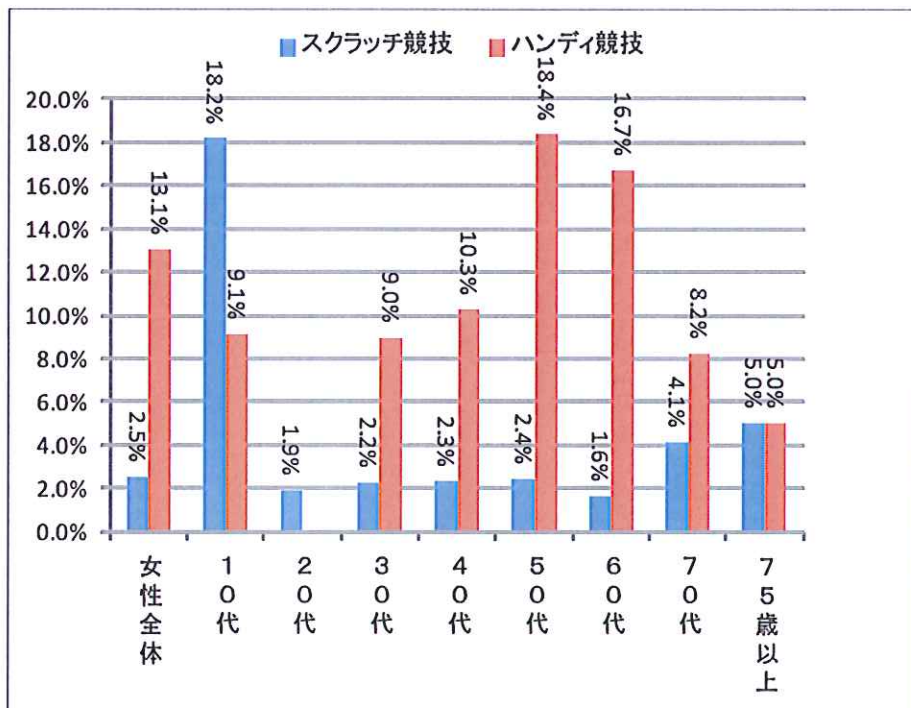
(8) 出場希望者の特性

1. 性・年齢別希望者率

男性

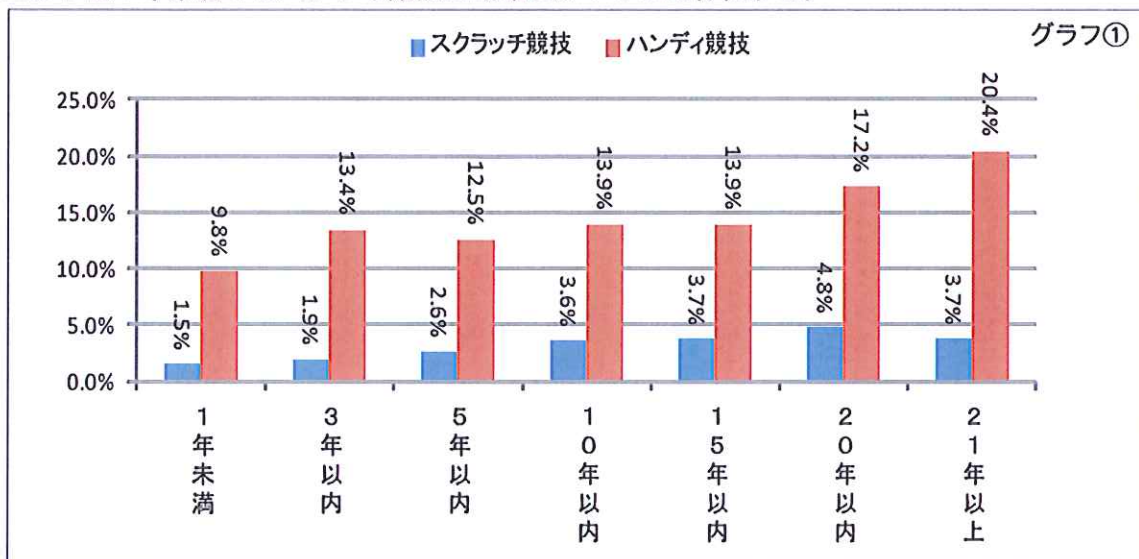


女性



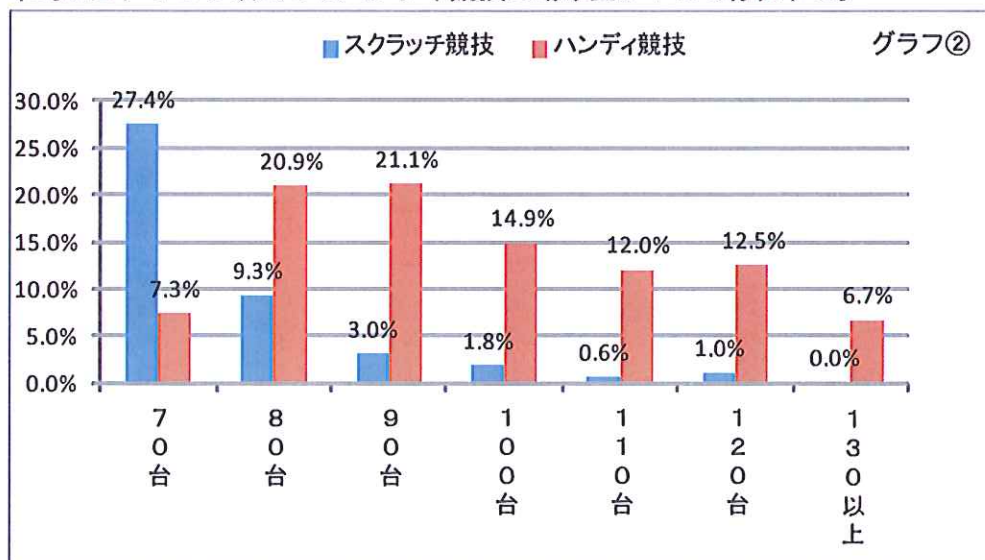
2. ゴルフ歴別希望者率（グラフ①）

ゴルフ歴1年未満でもハンディ競技出場希望が10%も存在する。

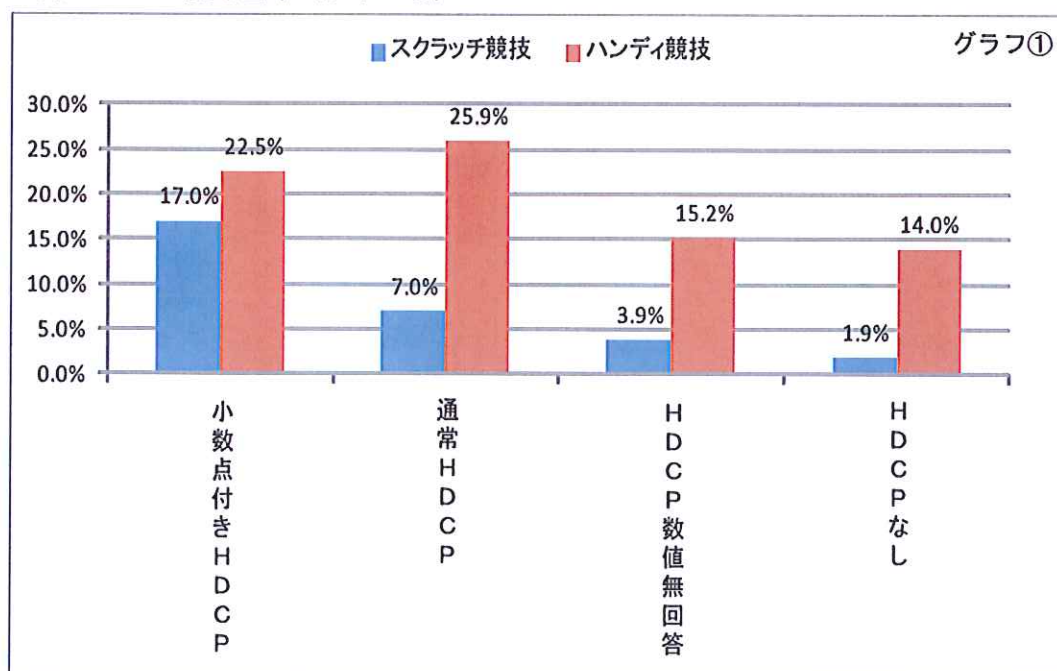


3. 平均スコア別出場希望率（グラフ②）

平均スコア130以上でもハンディ競技出場希望が7%も存在する。



5. 所有HDCP別希望率（グラフ①）



6. 過去の競技出場経験別希望率（グラフ②）

